荒神山古墳群 A 支群 1 号墳
第２次発掘調査　現地説明会資料

令和 6(2024) 年４月 13 日（土）

彦根市文化財課
滋賀県立大学考古学研究室

遺跡の概要

荒神山は、湖東平野の琵琶湖岸に独立して存在する山で、頂上付近には県内第２位の規模を誇る前方後円墳、荒神山古墳（古墳時代前期後半：４世紀後半）があります。一方で荒神山の山中には古墳時代後期～終末期（６世紀半ば～７世紀前半）の小さな古墳群が数多く築かれています。

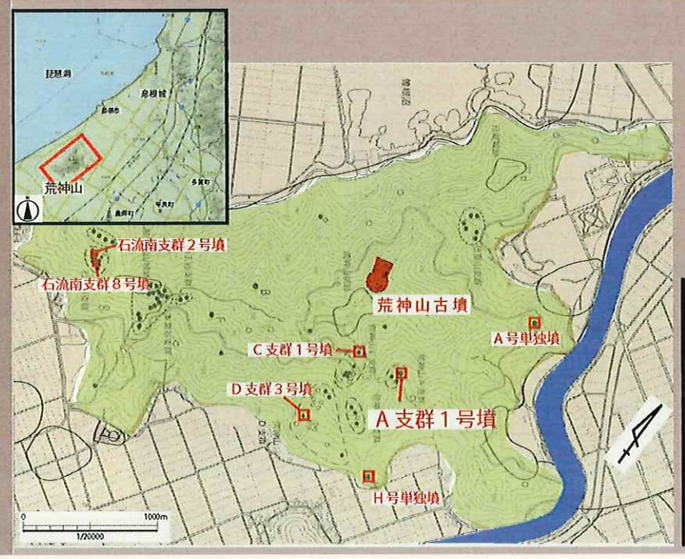
それらの中には、大津市の北部地域に集中する、渡来人との関係が指摘されているドーム状の天井構造をもつ横穴式石室を備えたものが複数認められます。荒神山古墳群は、湖西地域に比べて、渡来人の考古学的な痕跡が断片的な湖東地域の歴史を考えるうえで、非常に重要な遺跡といえます。

荒神山古墳群は石室が露出している古墳も多く、崩落の危険にあります。そこで令和４年度より彦根市文化財課では、荒神山古墳群の実態解明と今後の保護・活用にむけて、すでに荒神山古墳群で広範囲に測量調査をしていた滋賀県立大学と共同で発掘調査を実施することになりました。

これまでの調査成果

令和４年度の調査で明らかになった石室の特徴から、A 支群１号墳は６世紀末から７世紀前半ごろにつくられた古墳であると考えられます。また石室の形が東海地域でみられる胴張型であることが推測でき、この古墳が東海地域の影響を受けている可能性が高まりました。

さらに石室内部から石仏が発見され、石室床面の一部には炭が広がっていたことから、のちの時代に石室内が仏堂として利用されていたことがわかりました。



令和４年度の調査風景

石室で発見された石仏

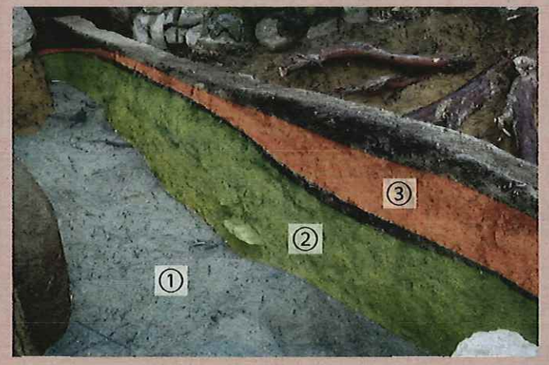
石室前面部の調査

昨年度の石室内における調査で中世（室町時代後期～戦国時代）の石仏が出土したことから、石室が信仰の空間として２次利用されていたことが明らかとなりました。これとともに幕末から明治時代初期にかけて、大量の土で意図的に埋め立てていることがわかりました。

このことを受け、今年度は石室の形態や規模の解明に加え、後の時代に古墳がどのように再利用されてきたかを明らかにするために石室の前面部を調査しました。

調査の結果、①中世以降に信仰の場として利用していた時の整地土、②幕末～明治時代初頭に石室を埋め立てた際の土、③現代（昭和時代）に祠を設置した時の整備に伴う土がそれぞれ分厚く堆積していたことを確認し、現代にいたるまでの複雑な利用状況の変遷が明らかとなりました。

今回の発掘調査では、古墳の床面まで調査を進めることができませんでしたが、石室前部からは大きな石が数石検出されました。それと石室との関係をはじめ、詳細な検討は来年の調査で行いたいと思います。



石室前面部の土層（南西から）

石室前面部の全景（南東から）
（左にみえる３つの巨石が石室石材と思われる）

調査成果のまとめ

○中世において古墳の墳丘上で大規模な土地の整備が実施され、礎石建物が建てられた可能性が高まりました。石室内部で中世の石仏が確認されたことを考慮すると、窟など修験道関係の施設として機能していたことが考えられます。

○中世のみならず、現代に至るまでに何度も古墳の一部が改変されていたことを確認しました。複雑な利用状況が想定できますが、一貫して信仰の空間として再利用されていたことは地域の歴史にとって重要な成果といえます。

墳丘の調査

今回の調査では昨年に引き続き、古墳の大きさを知るために墳丘に２か所の調査区を設けました。

予想では古墳の上に盛り上げられた墳丘の裾や、周囲に掘られた堀（周溝）が見つかるはずでしたが、調査の結果、この古墳の墳丘は中世（鎌倉時代か？）に大規模に削られていたことがわかりました。さらに、墳丘を削って水平に整地した土の上に２つの礎石を発見しました。礎石は建物の柱の基礎と考えられますが、瓦が出土していませんので、薄い木の板を重ねた柿葺（こけらぶき）もしくは、ヒノキの樹皮を重ねた檜皮葺（ひわだぶき）と考えられます。中世の建物は一般的に掘立柱建物で、こうした礎石建物は寺社や城郭にみられます。昨年度の調査において、石室内で中世の石仏を確認しているため、これに関連する宗教施設ではないかと考えています。その具体的な性格はまだわかりませんが、古墳が立地している荒神山には、かつて山上に「奥山寺」というお寺があり、さらに山の中腹や麓（ふもと）にも多くの寺院がありました。これらの寺院は修験道（山中での修行を大事にする仏教の一派）の拠点であり、このA-1号墳も石室を「窟（いわや）」とした「修行の場」であった可能性があります。今回の調査では、整地土と２つの礎石を確認しただけのため、建物の全容はまだ明らかになっていません。今後さらに実態を明らかにする調査が必要となっています。

北調査区

整地土検出面（南から）

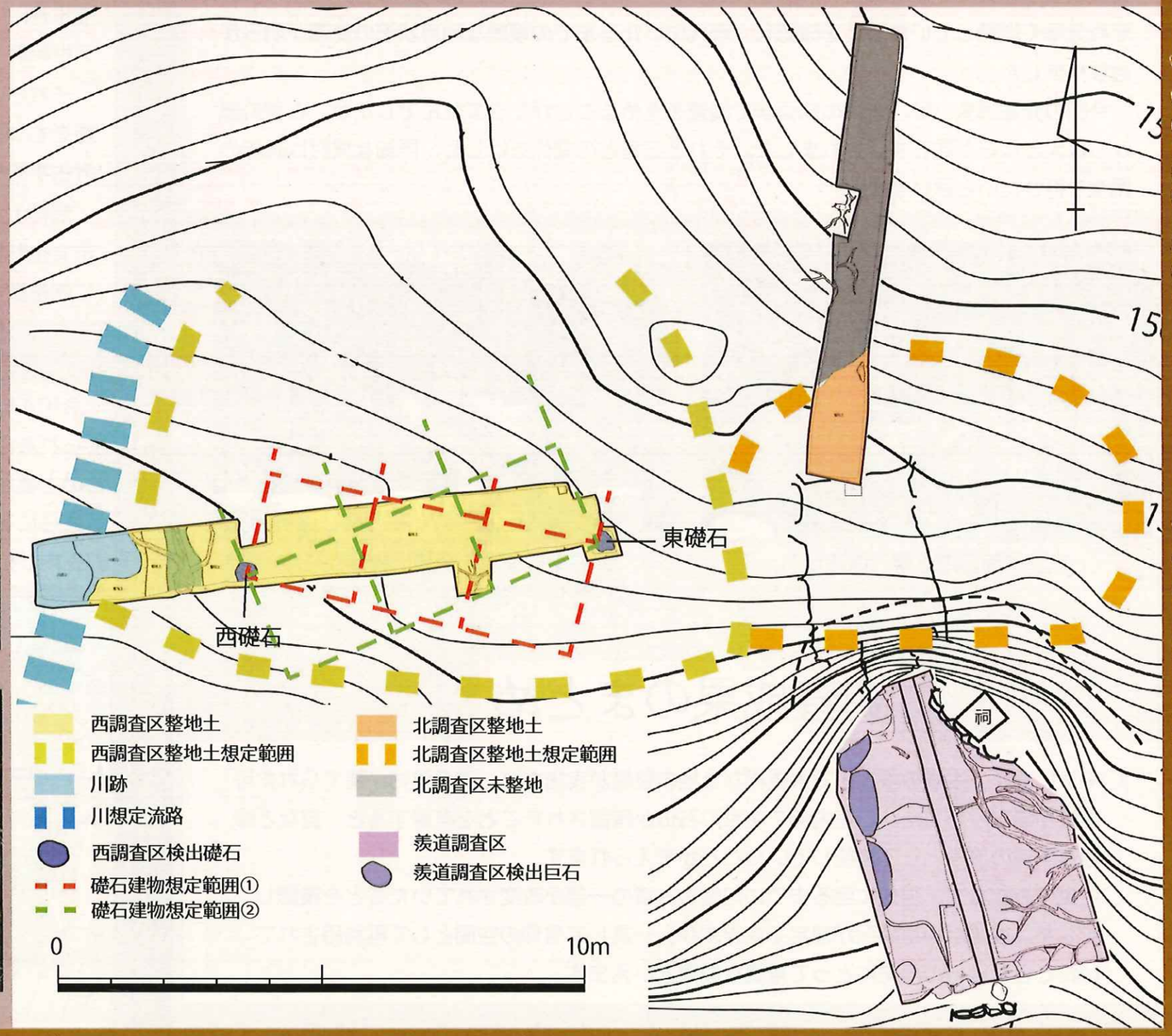
北調査区

整地土範囲（南西から）

西調査区

整地土・礎石（北西から）

整地土・東礎石（北から）

西礎石（北から）

雨落ち・川跡（北西から）